

厚生文教常任委員会所管事務調査報告書

本委員会の所管事務調査として、閉会中の継続調査に付託された調査事件について、調査の経過及び結果を会議規則第77条の規定により報告する。

平成21年6月9日

上富良野町議会議長 西村 昭教 様

厚生文教常任委員長 中村 有秀

記

- 調査事件名 1 上富良野小学校の改築について
2 地域福祉について

1 調査の経過

(1) 「上富良野小学校の改築について」

平成19年12月18日に開催された平成19年第4回定例会において、本委員会の所管事務調査として閉会中の継続調査に付託された。平成20年5月30日に委員会を開催し、教育委員会事務局職員から上富良野小学校建設の概要の説明を受け、各委員の質疑を行った。

上富良野小学校の建設概要

| 校舎 | 建設年月 | 建築・改修内容 |
|----------|--------------------------|-----------------------|
| 1線校舎 | 昭和35年12月 | 普通教室棟建築 |
| | 昭和58年1月 | 普通教室棟防音改修 |
| | | 管理棟建築、1・2線校舎渡り廊下建築 |
| 平成15年11月 | 2階一部改修(理科室1・2を理科室・家庭科室に) | |
| 2線校舎 | 昭和36年12月 | 建築 |
| | 昭和58年10月 | 防音改修 |
| | 平成3年12月 | 2・3線校舎渡り廊下建築 |
| | 平成15年11月 | 音楽室一部改修 |
| 3線校舎 | 昭和45年12月 | 東側校舎建設 |
| | 昭和46年11月 | 西側校舎建設 |
| | 平成3年12月 | 防音改修 |
| | 平成15年11月 | 西側校舎1階部分を支援・ことばの教室に改修 |

屋内運動場 昭和60年1月に建築

町議会の一般質問として、上富良野小学校校舎の耐震診断の実施(平成 16 年 3 月・12 月定例会)、上富良野小学校の早期建替(平成 17 年 12 月定例会)、上富良野小学校の改築計画(平成 18 年 3 月定例会)、小・中学校の耐震診断(平成 19 年 6 月定例会)、上富良野小学校の改築計画(平成 19 年 12 月定例会)、耐震改修計画(平成 20 年 9 月定例会)、上富良野小学校の改築(平成 21 年 3 月定例会)などについて的一般質問がなされている。特に、平成 19 年 6 月 8 日に文部科学省から全国の公立学校の耐震診断率と耐震化の最新の調査報告が発表され、道内では耐震診断の実績と計画が無しの 33 自治体の中に、上川管内では上富良野町と中富良野町・南富良野町・音威子府村が入っていた。それらの経過の中から、10 数回の委員会を開催するとともに上富良野小学校の現地調査をして学校長、教頭、教育委員会事務局員の説明を受けた。

(2) 「地域福祉について」

平成 21 年 3 月 27 日に開催された平成 21 年第 1 回定例会において、本委員会の所管事務調査として閉会中の継続調査に付託され、平成 21 年 5 月 25 日に委員会を開催し、保健福祉課福祉対策班から平成 21 年 3 月に策定した上富良野町地域福祉計画(平成 21 年度～平成 25 年度)について説明を受けた後に各委員の質疑と意見交換を行った。地域福祉は、全ての町民が生活の拠点である住みなれた地域で安心した暮らしができるよう、地域の助け合いによる福祉を推進するため、お互いを思いやり、助け合い、その人らしく自立した生活が送れるようなしくみをつくるため「地域のつながり」と「人と人のつながり」を大切にする計画で、幅広い町民の主体的な参加と町民、事業者、行政の協働のもとに「ともに支えあい、生き生きと暮らせる地域づくり」を実現することを目的としていることを認識して調査を進めた。

2 調査の結果

(1) 「上富良野小学校の改築について」

ア 上富良野町公立学校の旧耐震化基準の状況について

昭和 56 年以前に建設された旧耐震化基準の上富良野町公立学校の状況は、校舎が 11 棟(上富小 4 棟、東中小 1 棟、上富中 5 棟、東中中 1 棟)と体育館が 1 棟(西小 1 棟)の合計 12 棟あり、安全・安心な学校校舎を判断するため、早急に耐震診断を実施する必要がある。子ども達が通っている学校は、大丈夫なのか。学校は災害等の避難所になっているが、地震の時に頼れるのか。このことは命に係わる問題であり、保護者や住民にとっても欠かせない情報である。

イ 上富良野小学校の現状について

校舎は、昭和 35 年建築の 1 線校舎をはじめ、昭和 36 年、昭和 45 年建設の躯体を増築、改築を加えながら現在の形になっている。1 線校舎及び 2 線校舎の児童が供用している部分は、基本的に無改造のままである。(校舎外壁工事と併せサッシを入れ替えているが、二重ではない。)

給水設備と排水設備は、1 線校舎管理棟部分の改築に伴い昭和 57 年に改造を

しているが、給水設備については今までメンテナンスが実施されないまま 27 年が経過している。排水設備は、前記改造時に下水道に接続されたが、既存の簡易水洗の便器、配管を使用しているため、「排水トラップ」が無く、下水道から臭気が上がってきており衛生的ではない。

暖房設備は、年次計画（15 年サイクル）に沿って順次防衛補助を受けながら更新されてきたが、3 線校舎系統は「校舎改築」をにらみ見送っている。

しかし、本ボイラーは設置後「燃焼爆発」をおこしており、以後、危険防止のため本来の燃焼効率まで温度を上げることができず、また、老朽化により近年修繕費がかさんできており、平成 21 年 2 月には温風暖房機が着火しない故障が発生した。

平成 20 年度の修繕費等の状況 (金額単位 円)

| 修理項目 | 件数 | 金額 | 備考 |
|-----------|----|-----------|---------------------------|
| ボイラー関連 | 6 | 428,851 | |
| 教室照明器具 | 6 | 50,295 | 蛍光灯不点灯（主に 2 線校舎） |
| 講堂（体育館）関連 | 8 | 352,663 | |
| 施設維持関連 | 7 | 138,873 | |
| 学習備品関連 | 7 | 177,240 | |
| 維持備品（刈払機） | 4 | 76,996 | 2 台 |
| 維持備品（除雪機） | 3 | 49,843 | 1 台（購入後 14 年経過）H19：100 千円 |
| 合計 | | 1,762,252 | |

現況施設の永続使用について

もっとも古い昭和 35 年の建築物を今後も継続使用するにあたっては、大小さまざまな改造が必要と考えられる。

・玄関の集約

現況においては、すべての棟に玄関があり児童が出入りしている。防犯上、死角を排除して、玄関の集約が必要である。

・トイレの改修

昭和 57 年改造のものは、それ以前に整備された便器をそのまま再利用しているため、下水道から臭気が上がってくる。また、洋式トイレが不足している。

・電気の設備

壁付きのコンセントだけでなく、校舎内に配線されている電線、弱電線（校内放送）は、建築時からのものを使用している場所もあり、漏電の心配が大きい。

・外壁及び屋根等

外壁はクラックが入っており、一部滑落してきている。（滑落箇所は、適時補修）

また、屋根の軒天が短く、雪や氷が巻き込み崩落している。（適時補修）

屋根は、塗装補修がされておらず、風を伴う雨や雪解け時にはいたるところで雨漏りがあり、漏電も心配される。

・講堂の照明器具

電球と取付け部分が劣化により接触不良で接点部分が焼け、コードが短くなっている。補修部品はない。

・講堂の設備

ワックスの状態が悪く危険であり、ラインの再測量が必要である。

バスケットボードのボールアンカーが不安定で1カ所取り換えをしている。

・重油地下タンク

平成 19 年に漏えいが発見され一部敷設替えを行っているが、すべてのラインを入れ替える必要がある。

・暖房設備

更新を見送った 3 線校舎ボイラーの更新と 1・2 線校舎の 2 重断熱サッシの導入。

・鍵の付け替え

校舎で使用している鍵は、メーカーが倒産しているため、キーシリンダーが壊れた際には新しいものへと交換をしている。このため、マスターキーといわれるものが 3 種類になっており、管理が煩雑でマスターキーの統一が必要である。

ウ 上富良野小学校の耐力度調査について

耐震診断の前に、平成 20 年 7 月に耐力度調査を予算額 450 万円で実施した。

平成 21 年 2 月にその結果が明らかになり、校舎別の耐力度は次のとおりである。

| 校舎別 | 建築年月 | 経過年数 | 耐力度 |
|---------|----------------|-------|------------|
| 1 線校舎 | 昭和 3 5 年 1 2 月 | 4 8 年 | 4, 8 3 2 点 |
| 1 線管理棟 | 昭和 5 8 年 1 月 | 2 5 年 | 5, 9 6 7 点 |
| 2 線校舎 | 昭和 3 6 年 1 2 月 | 4 7 年 | 4, 7 8 8 点 |
| 3 線校舎・東 | 昭和 4 5 年 1 2 月 | 3 8 年 | 4, 9 5 7 点 |
| 3 線校舎・西 | 昭和 4 6 年 1 月 | 3 7 年 | 5, 4 4 3 点 |

耐力度の基準点は、「4, 5 0 0 点以下は改築を要す。4, 5 0 0 点超は二次診断として耐震診断を要す。」となっている。(北海道教育庁)

ただ、耐力度の基準は平成 19 年 4 月に現行に改正されており、改正前は「5, 0 0 0 点以下と 5, 0 0 0 点超であった」ので、旧基準で判定されていれば、「1 線校舎、2 線校舎、3 線校舎・東側は改築を要す。」と判定されることになる。

エ 上富良野町公立学校校舎の耐震診断について

町は、昭和 56 年以前に建設した校舎の耐震診断を平成 21 年度予算で実施することとし、上富小校舎は 4 棟で 750 万円、西小体育館は 187 万円、上富中校舎は 5 棟で 855.6 万円、合計 1,793.6 万円を予算計上している。

この耐震診断は、平成 21 年 7 ~ 8 月に実施され、4 ~ 5 ヶ月で診断結果「構造耐震指標 (IS 値)」によって「改築を要す。」「耐震補強を要す。」「耐震上問題なし。(質的向上の整備)」に判定されることとなる。

オ まとめ

以上の経過から、旧耐震基準で建築された上富良野小学校の校舎については、耐力度調査では僅かなポイントでクリアされているが、設備等の老朽化が進み、時代の要請である放課後スクールの対応や防犯関係とも含めて早急に改築すべきであるが、少子化による児童・生徒の減少も視野に入れた改築計画を検討すべきと判断される。他の学校校舎については、耐震診断の実施とその結果による改築又は補強を検討すべきである。町内の児童・生徒の安心・安全な学校と災害時の住民避難場所としての校舎にすべきである。

(2) 「地域福祉について」

ア 地域福祉を取り巻く現状について

地域福祉を取り巻く現状については、人口の推移と年齢別人口の推移、高齢者の現況、障がい者の現況、児童の現況、ボランティアの登録者数等が地域福祉計画策定にあたって適確に把握されていた。

イ 計画の基本理念と基本目標について

地域福祉計画の将来像は、「支えあい、教えあい、育てあい」と「町民が安心して暮らせる温もりのあるまち」とし、基本目標は、1 「支えあい みんなで支えあうための福祉ネットワークづくり」 2 「教えあい 安心して暮らせる地域社会づくり」 3 「育てあい みんなで育てる福祉の環境づくり」となっている。

このことを実現するため、行政、町民、事業者などがそれぞれの特性を理解しながら、それぞれの役割を分担して、地域福祉活動の主体となる「協働」のもとで、町民一人ひとりが個人として尊重され、安心して暮らせる地域福祉社会を目指している。本町は、平成 21 年 4 月から自治基本条例が施行されたのに伴い、協働のまちづくりを推進する準備が進められようとしているが、地域福祉活動は、身近な生活視点での「協働」が発揮されなければならない。

ウ 地域福祉計画の施策の展開について

地域福祉計画の施策の展開については、各委員と説明員との間で質疑と意見交換に大半の時間を費やした。今回の地域福祉計画書には、基本目標の「支えあい、教えあい、育てあい」毎に、策定にあたっての「アンケート調査等からの住民の声」が 44 件掲載されているので、各々の施策項目の推進に住民の声が反映されていることが理解できるとともに、非常に読みやすくなっていた。

基本目標の 3 項目での意見が交わされた内容は次のとおりである。

1 支えあい

- ・ 福祉推進員等自治会(町内会)役員の研修の充実
- ・ いきいきサロン事業の推進

- ・ 福祉懇談会の開催への取り組み
- ・ 高齢者が暮らしている地域で高齢者を支える活動を進めるための人材育成
- ・ 小地域ネットワークづくりの促進と支援
- ・ 地域で子育てを支援するしくみづくりの推進

2 教えあい

- ・ 地域の総合相談体制の充実
- ・ 夜間対応型訪問介護事業の調査・研究の実施
- ・ 情報提供の体制の整備
- ・ 要援護者マップ作成の取り組み
- ・ 災害時の要援護者の安否確認、避難支援事業の実施

3 育てあい

- ・ 高齢者、障がい者に優しい公共施設、公営住宅等の在り方の調査・研究
- ・ 福祉除雪の調査・研究
- ・ 福祉教育協力校指定事業の推進

エ まとめ

平成 21 年度から 25 年度までの上富良野町地域福祉計画は、上富良野町福祉関係 11 団体の代表と公募委員 2 名によって策定された。

上富良野町の地域福祉について、少子高齢化を踏まえ多様なニーズに対応して実践事業の内容と年度別事業計画が記載されており、その内容についてはおおいに評価をしたい。第 5 次総合計画との整合性を求めているとともに、いかに「協働の力」を発揮させるかがポイントであると判断される。

「町民が安心して暮らせる温もりのあるまち」にするために、本計画の進行評価については、計画の進捗状況や成果等を単年度ごとに適切に評価するとともに次年度への実践計画が大切である。